

クッチャロ湖における コハクチョウとオオハクチョウの求愛行動

小西 敢

浜頓別クッチャロ湖水鳥観察館, 098-5739 北海道枝幸郡浜頓別町クッチャロ湖畔

はじめに

日本へ越冬のために渡って来る白鳥は主に亜種コハクチョウ *Cygnus columbianus jankowskyi* とオオハクチョウ *Cygnus cygnus* の2種である。両種の形態は良く似ているが、嘴の黒色と黄色の模様が異なる事で識別ができ、体長や体格も違う別種である。

2012年12月から2013年4月まで北海道浜頓別町クッチャロ湖において、コハクチョウとオオハクチョウの求愛行動が見られた。クッチャロ湖においては初めての観察記録となり、国内においてもたいへん稀な行動と思われるため、ここで報告したい。

クッチャロ湖に飛来する白鳥

クッチャロ湖には、毎年、4,000～5,000羽の白鳥が春と秋の渡りの時期に飛来している。その殆どはコハクチョウで、オオハクチョウはそのうち1割以下である。毎年、渡って来た白鳥のうち約400羽が越冬している。越冬している白鳥も殆どがコハクチョウで、オオハクチョウの越冬数は少なく2009-2010年の冬は3羽、2010-2011年は0羽、2011-2012年1羽、2012-2013年1羽であった。

白鳥の番いの形成と求愛行動

コハクチョウやオオハクチョウなどの白鳥の仲間は、番いを形成すると一生連れ添うと言われている(日本野鳥の会1988)。越冬地や繁殖地、渡りの途中で番い相手を探し、求愛行動を行い番い形成するものと思われ、筆者も2012年4月にクッチャロ湖で渡りの途中のオオハクチョウが新しく番いを作っているのを観察した事がある。求愛行動には、鳴き交わしやお互いの胸と嘴を合わせてハート型をつくる「ハッピーリング」と呼ばれる行動がある(小西2009)。また、鳴き交わしの最中に近くにいる他の番いに対して一緒に嘴で威嚇するなど、番い以外の白鳥に対して排他的な行動をとる。秋に飛来した幼鳥も、鳴き交わしには参加するが、性成熟には4年かかると言

われている (山内 1999). 群れからはぐれたオオハクチョウが, コハクチョウと行動する事やその逆もいくつか観察する事があるが, 今回の事例は, 明らかに求愛の行動をとっている状況がみられた.

求愛行動をしていたコハクチョウ (183Y)



写真1 (コハクチョウ 183Y)

求愛行動を行っていたコハクチョウは, 2010年12月22日にクッチャロ湖で人工衛星追跡調査のため, 首と左足に183Yの白い刻印がある緑色のカラーリングを装着した個体. 雌雄は不明で, 放鳥時から成鳥. 2010年以降, 毎年, クッチャロ湖で越冬していた単独個体. 2012年は11月29日にクッチャロ湖に戻って来ているのを確認し, その時も単独で行動していた. 既に首環はずれており, 足リングで個体を識別していた.

この白鳥は以下, 183Yと呼ぶ事とする (写真1).

求愛行動をしていたオオハクチョウ

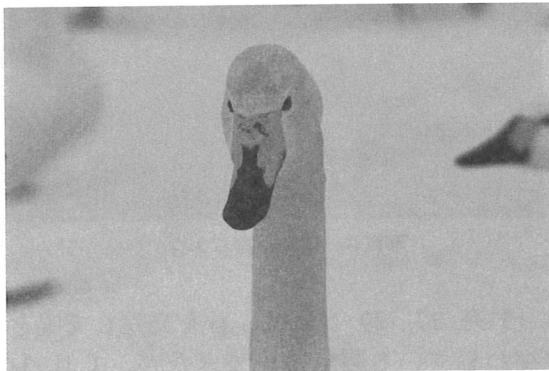


写真2 (求愛行動をしたオオハクチョウ)

相手のオオハクチョウは, 2012年12月30日にクッチャロ湖に飛来してきた成鳥の単独個体. 12月29日までは, クッチャロ湖にはコハクチョウしか越冬していなかったため, サハリン等から南下してきた個体と思われた (写真2).

183Yとオオハクチョウの観察記録

183Yとオオハクチョウが, 寄り添いながら一緒に泳いでいるのを初めて観察したのは, 2013年2月22日15時50分頃. その日は夕日とハッピーリングを撮影しようといくつかの番いを作るハッピーリングを観察していた. その内, 2羽の白鳥の大きさが違う事に気付き確認したところ183Yとオオハクチョウであった. 2羽のハッピーリングの撮影はできなかったが, 番いとして一緒に行動しているのが認識できた (写真3).

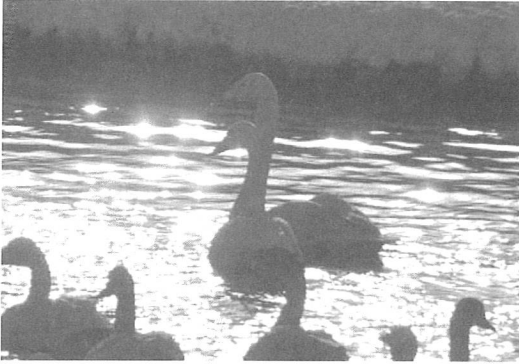


写真3 (仲良く寄り添う2羽)

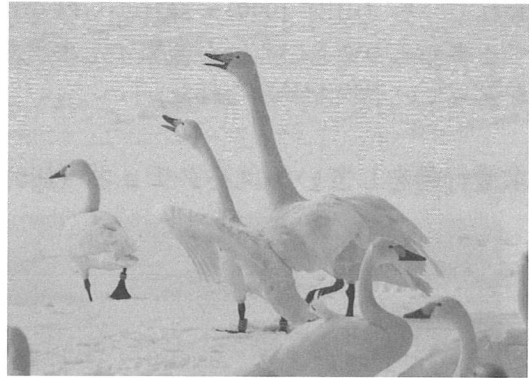


写真4 (鳴き交わす2羽)

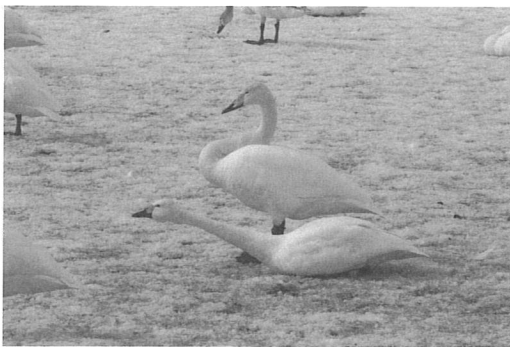
その後、3月1日には、2羽が並行に泳ぎ一緒に採食しているところを観察。3月7日には、2羽が横に並んで鳴き交わしを行い、直後に他のコハクチョウの番いに対して一緒に攻撃行動をとった(写真4, 5)。また、他のコハクチョウの番いを追い出すと勝利宣言のようにお互いが対面になって首を空に上げて鳴き交わした(写真6)。



写真5 (左のコハクチョウへ攻撃をする2羽)



写真6 (勝利を喜ぶ2羽)

写真7 (183Yに対して反応の薄いオオハク
チョウ)

3月27, 29日には、首を交差して鳴き交わしている姿も確認できたが、3月31日に183Yがオオハクチョウに向かって鳴いても、オオハクチョウが何も反応しなくなり、183Yから遠ざかって行ってしまった(写真7)。それ以降、183Yとオオハクチョウと一緒に行動しているところは観察できなくなった。183Yは、その後5月3日まで単独で行動しているのを確認したが、183Yと求愛していたオオハクチョウは、3月29日から仲間のオオハクチョウ

の数が47羽と増えた事もあり、確認できなくなった。

考察

183Y とオオハクチョウは、2月22日以降、常に行動を共にしていたわけではない。このため、まだ、番い形成の途中の段階だったと思われる。2羽がお互い番いを作る年齢に達していた事、コハクチョウの群の中で1羽だけオオハクチョウだったため、オオハクチョウとしては、コハクチョウの中から番い候補を選ぼうとしていたのかも知れない。3月20日からオオハクチョウが8羽となり、いくつか北上してきた事で、本来の番い相手に目が向くようになったと考えられる。

種が異なる両種が、番いになっても183Y とオオハクチョウの間に雛が生まれる可能性は少ないと推測され、お互いにとっては、番いの解消は良かったと考えられる。

ただし、国内では両種の交雑種らしき個体も観察された事があり（桐原 2003）、両種が番いになるという認識がなかった事から、見逃している可能性もある。今後も両種の番いが形成されていないか注意深く観察する必要があると考える。

引用文献

- 角田分. 2009. Swan in Japan その生態を追う. 北星印刷株式会社, 山形.
- 桐原政志. 2003. オオハクチョウと酷似した嘴の模様を持つ特異なコハクチョウの記録. 日本の白鳥 (27) : 20-23.
- 黒田長禮. 1939. 雁と鴨. 修教社書院, 東京
- 小西敢. 2009. めぐる季節と鳥たち. モーリー (20) : 104.
- 日本鳥類目録編集委員会. 2012. 日本鳥類目録改訂第七版. 日本鳥学会, 東京.
- 日本野鳥の会編集室. 1988. 個体識別によりコハクチョウの越冬群を調べる. 野鳥 (508) : 18-21.
- 山内昇. 1999. Lake Kutcharo 自然の楽園クッチャロ湖. クッチャロ湖湿原保全協議会, 北海道